

**首都高速道路株式会社  
第12期（平成29年3月期）  
決算説明会**

**平成29年6月9日**

# 連結決算の概要

(単位：億円)

	H29/3期	H28/3期	増減
営業収益	6,610	3,084	+ 3,525
営業費用	6,555	3,006	+ 3,548
営業利益	55	78	△ 22
経常利益	59	81	△ 22
税引前利益	57	73	△ 15
法人税等	△ 24	23	△ 48
内：代行返上益に係る 法人税等調整額	△ 46	-	△ 46
親会社株主に帰属 する当期純利益	82	49	+ 32

- ▶ 当社グループの連結決算では、横浜北線の開通に伴い道路資産を機構に引渡したこと等により、営業収益・費用が前期を大きく上回りました。
- ▶ また、平成29年度に発生予定の厚生年金基金の代行返上益に対して税効果会計基準を適用し、法人税等調整額に△46億円を計上したことで、親会社株主に帰属する当期純利益は82億円（前期比66.1%増）となりました。

(注) 端数処理の関係で計が合わないことがあります。

# 高速道路事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	H29/3期	H28/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>6,369</b>	<b>2,890</b>	<b>+ 3,479</b>
内：料金収入	2,694	2,555	+ 139
内：道路資産完成高	3,673	334	+ 3,339
<b>営業費用</b>	<b>6,329</b>	<b>2,821</b>	<b>+ 3,508</b>
道路資産賃借料	1,886	1,841	+ 45
道路資産完成原価	3,673	334	+ 3,339
管理費用等	768	645	+ 123
<b>営業利益</b>	<b>40</b>	<b>69</b>	<b>△ 29</b>

- 営業収益について、料金収入は、景気の緩やかな回復基調の下、2,694億円（前期比5.5%増）となりました。道路資産完成高については、横浜北線の開通等により3,673億円（前期比998.4%増）となりましたが、営業費用において、道路資産完成高と同額の道路資産完成原価を計上しており、損益に与える影響はありません。
- 営業費用について、管理費用等は高速道路の安全・安心のための維持補修に注力した結果、768億円（前期比19.1%増）となりました。
- その結果、高速道路事業の営業利益は40億円（前期比42.0%減）となりました。

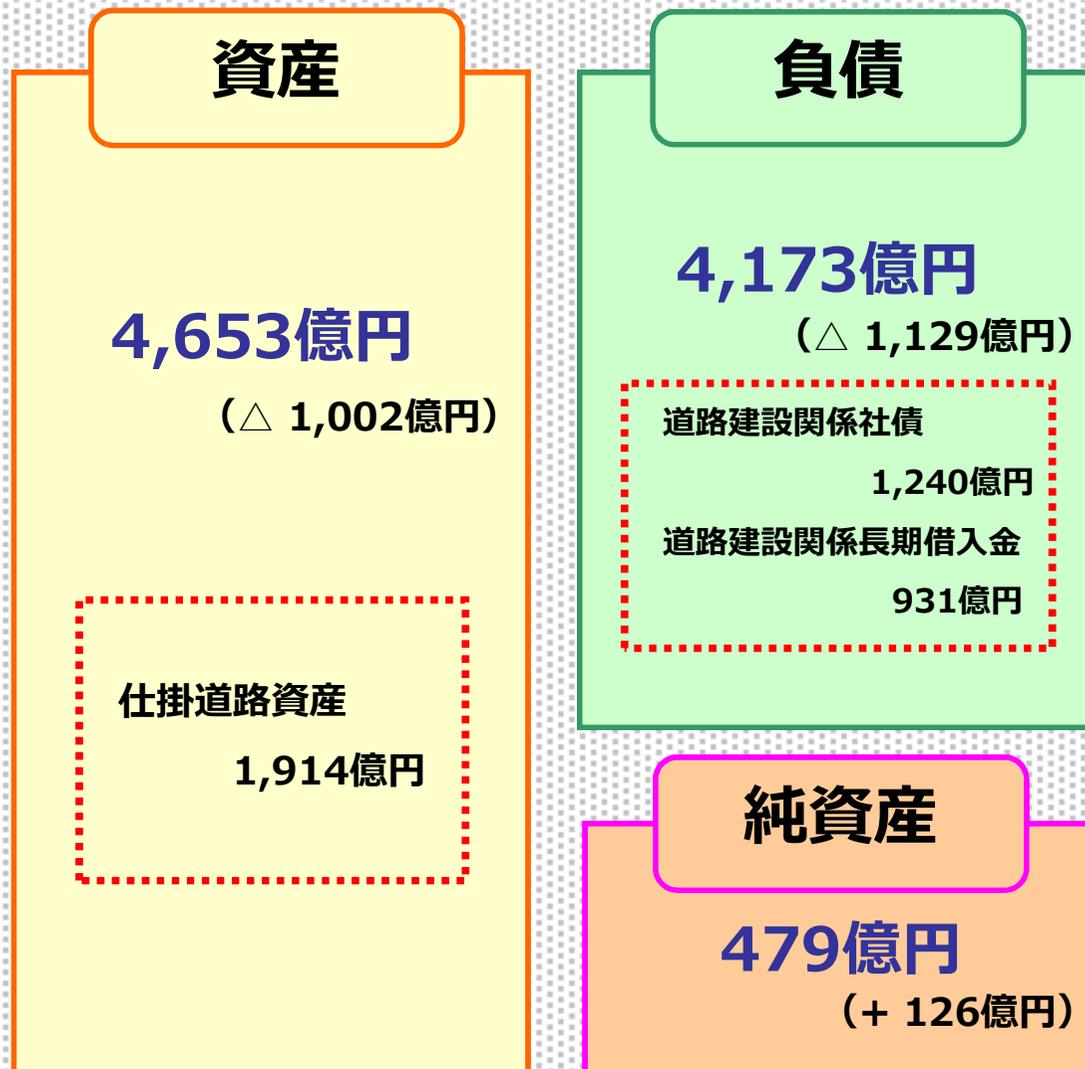
## 関連事業の損益状況（連結）

（単位：億円）

	H29/3期	H28/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>247</b>	<b>199</b>	<b>+ 48</b>
<b>駐車場事業</b>	<b>31</b>	<b>29</b>	<b>+ 1</b>
<b>受託事業</b>	<b>188</b>	<b>145</b>	<b>+ 42</b>
<b>その他の事業</b>	<b>28</b>	<b>24</b>	<b>+ 3</b>
<b>営業費用</b>	<b>232</b>	<b>190</b>	<b>+ 41</b>
<b>内：受託事業</b>	<b>184</b>	<b>145</b>	<b>+ 39</b>
<b>営業利益</b>	<b>15</b>	<b>9</b>	<b>+ 6</b>

- 駐車場事業は、都市計画駐車場事業（5箇所）と高架下駐車場事業（58箇所）を実施しており、営業収益は31億円（前期比5.7%増）となりました。
- 受託事業は、横浜環状北西線のシールドトンネル工事等が進捗したことにより、営業収益は188億円（前期比29.5%増）、営業費用は184億円（前期比26.9%増）となりました。
- その他事業は、休憩施設及び高架下賃貸施設の運営・管理等を行っており、営業収益は28億円（前期比15.3%増）となりました。
- その結果、関連事業の営業利益は15億円（前期比70.5%増）となりました。

# 連結財政状態



- 資産の部は、仕掛道路資産において、晴海線、特定更新等工事などの進捗による増加があった一方、横浜北線等の道路資産を高速道路機構へ引渡したことにより1,002億円減となりました。その結果、資産残高は4,653億円となりました。
- 負債の部は、新規路線建設の資金調達と、高速道路機構への債務引渡しにより1,129億円減となりました。その結果、負債残高は4,173億円となりました。

( ) 内は平成28年3月末からの増減

# 単体決算の概要

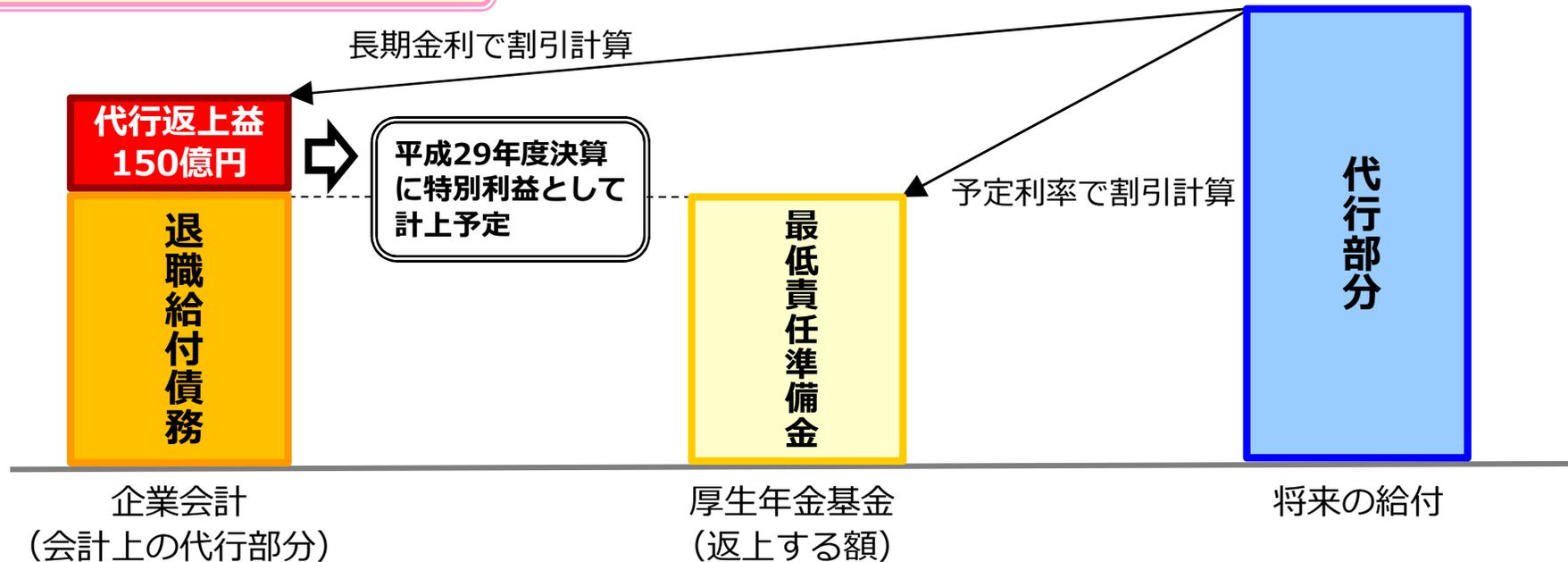
(単位：億円)

	H29/3期	H28/3期	増減
<b>営業収益</b>	<b>6,574</b>	<b>3,052</b>	<b>+ 3,522</b>
高速道路事業	6,369	2,890	+ 3,479
関連事業	205	161	+ 43
<b>営業費用</b>	<b>6,558</b>	<b>2,994</b>	<b>+ 3,563</b>
高速道路事業	6,360	2,835	+ 3,524
関連事業	198	158	+ 39
<b>営業利益</b>	<b>16</b>	<b>57</b>	<b>△ 41</b>
高速道路事業	9	54	△ 45
関連事業	7	2	+ 4
<b>経常利益</b>	<b>23</b>	<b>63</b>	<b>△ 40</b>
<b>法人税等</b>	<b>△ 38</b>	<b>15</b>	<b>△ 54</b>
内：代行返上益に係る 法人税等調整額*	△ 46	-	△ 46
<b>当期純利益</b>	<b>60</b>	<b>39</b>	<b>+ 21</b>

※平成29年度に発生する予定の厚生年金基金の代行返上益に対して税効果会計基準を適用しています。

# 【参考】 代行返上益の発生及び税効果会計の適用

## ➤ 1. 代行返上益の発生



## ➤ 2. 代行返上益に係る法人税等調整額（税効果会計）

$$\begin{array}{l} \text{厚生年金基金} \\ \text{代行返上益} \end{array} \quad \underline{150 \text{ 億円}} \times \text{実効税率 } 30.86\% = \underline{46 \text{ 億円 (法人税等調整額)}}$$

- H28年度の当期純利益は46億円増加、H29年度の当期純利益は46億円減少  
→通算すれば損益は生じない

**第13期（平成30年3月期）  
連結業績見通し**

# 第13期（平成30年3月期）の連結業績見通し

（単位：億円）

	H30/3期 見通し	H29/3期 実績	増減
営業収益	5,303	6,610	△ 1,307
料金収入	2,695	2,694	+0
道路資産完成高	2,300	3,673	△ 1,373
関連事業	307	247	+59
営業費用	5,288	6,555	△ 1,266
営業利益	14	55	△ 41
経常利益	11	59	△ 48
特別利益 <sup>※1</sup>	150	4	+146
法人税等	60	△ 24	+85
内：代行返上益に係る 法人税等調整額 <sup>※2</sup>	46	△ 46	+93
親会社株主に帰属 する当期純利益	101	82	+19

※1 平成29年度に発生する予定の厚生年金基金の代行返上益を計上しています。

※2 平成29年度に発生する予定の厚生年金基金の代行返上益に対して税効果会計基準を適用しています。

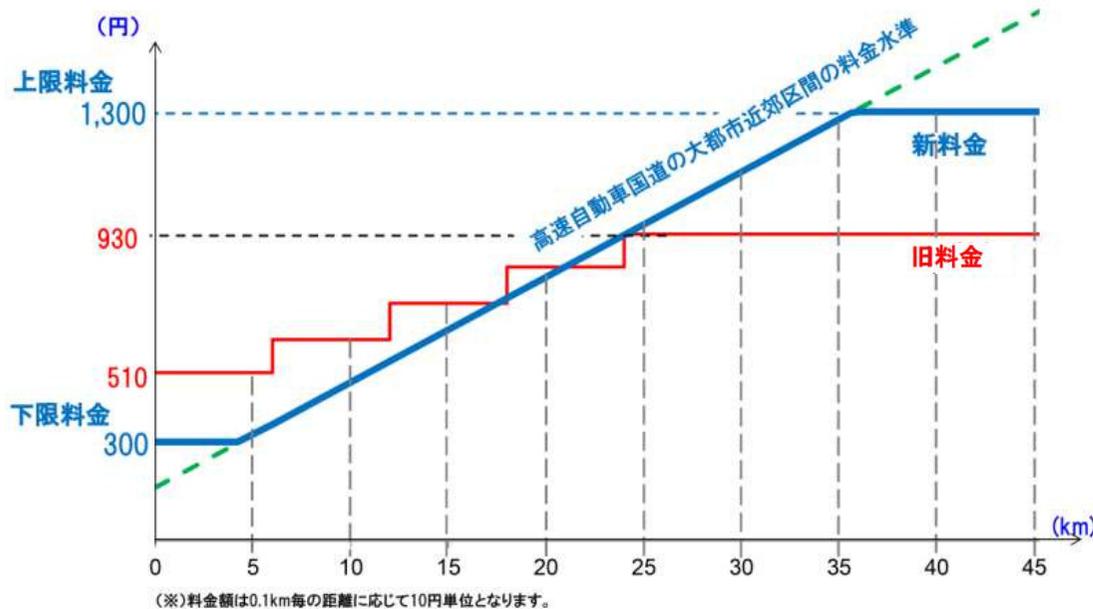
（注）見通しについては、様々な要因により変化するものであり、将来の業績等を保証するものではありません。

## **【参考】平成28年度の事業概況**

# 首都圏の新たな高速道路料金への移行 (H28.4.1~)

- 対距離制を基本とした料金体系に整理・統一
  - ・ 「料金水準」を高速自動車国道の大都市近郊区間の水準に統一
  - ・ 「車種区分」を5車種区分に統一
- 起終点を基本とした継ぎ目のない料金の実現

## ■ 料金水準 (ETC・普通車の例)



## ■ 車種区分

【平成28年3月まで】

旧車種区分	普通車	大型車
車種間比率	1.0	2.0



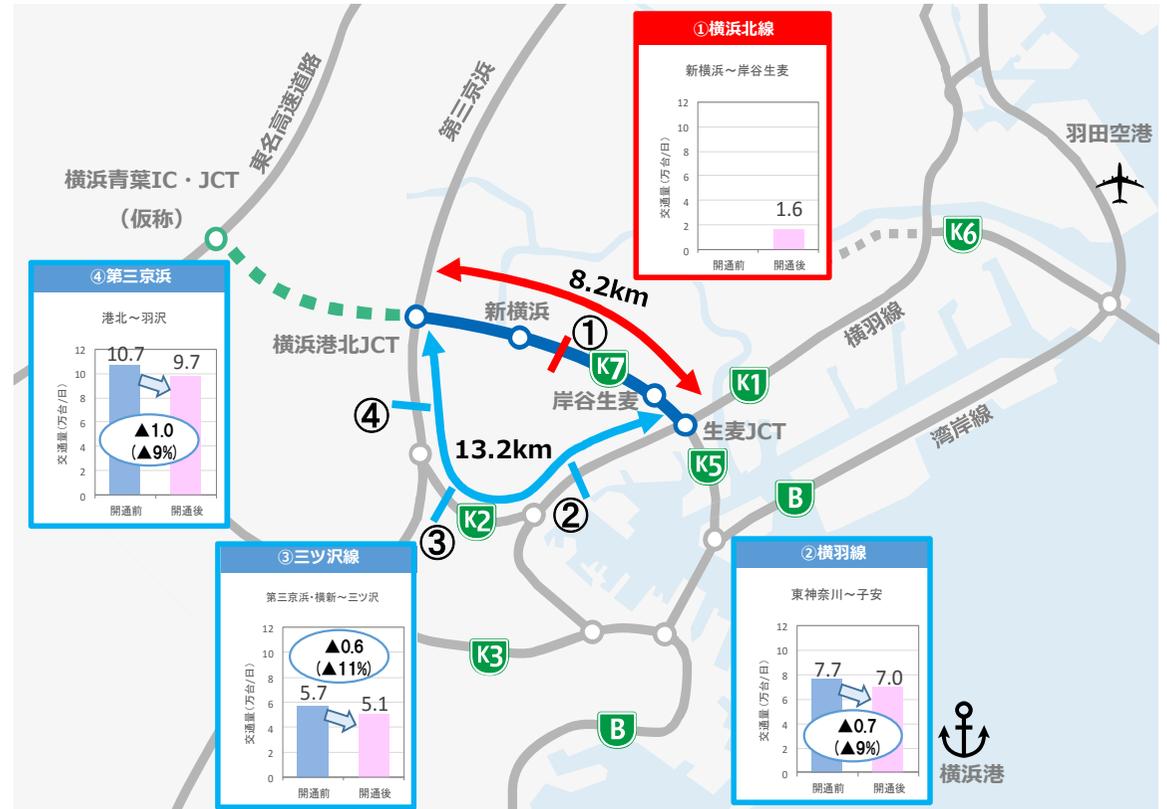
【平成28年4月より】

新車種区分	軽・二輪	普通車	中型車	大型車	特大車
車種間比率	0.8	1.0	1.07	1.65	2.14

(注)中型車及び特大車は、平成28年4月から平成33年3月31日までの比率

# 横浜北線（横羽線～第三京浜 8.2km）の開通

- **K7 横浜北線**（**K1 横羽線**～第三京浜）が2017年3月18日（土）16時に開通
- 交通量は、1日あたり約16,000台（①新横浜～岸谷生麦間）
- 第三京浜から **K1 横羽線**の区間（②～④）が約6,000～10,000台減少しており、**K7 横浜北線**に転換していることが想定されるため、今後経路変化等について分析する予定



<単位>万台/日

<使用データ> 首都高速道路及びNEXCO東日本 車両感知器による平日平均データ

開通後：平成29年3月21日(火)～平成29年4月14日(金) 開通前：平成28年3月22日(火)～平成28年4月15日(金)

# 横浜北線（横羽線～第三京浜 8.2km）の開通

- ▶ 新横浜駅と羽田空港（空港中央出入口）間の所要時間は、混雑時であっても開通前の約43分から開通後には約31分と約12分短縮
- ▶ 新横浜駅と羽田空港を結ぶ空港連絡バスが⑦横浜北線経由に経路変更し、ダイヤ改正により所要時間が最大5分短縮となった運行時刻に変更



※年間の平均的な混雑時（上り7時台、下り18時台）における所要時間  
 ※開通前は港北ICを利用

<使用データ> 車両感知器による平日平均データ

開通後：平成29年3月21日(火)～平成29年4月14日(金)  
 開通前：平成28年3月22日(火)～平成28年4月15日(金)



⑦横浜北線経由の運行路線

- ⇔ 新横浜駅・新横浜P°リンスホテル
  - ⇔ センター北・センター南駅
  - ⇔ たまプラーザ駅
  - ⇔ 新百合ヶ丘駅
- 羽田空港

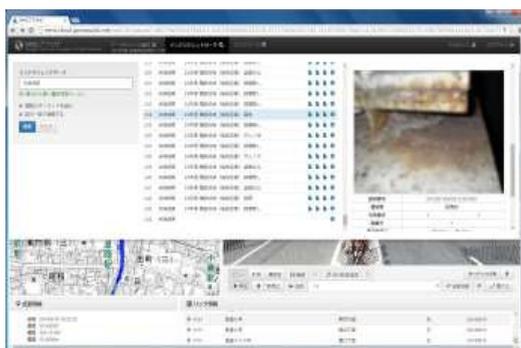
# 道路の適切な維持管理 ～安全・安心・快適への取り組み～

- 道路を安全な状態に保つため、きめ細やかな点検及び監視を実施
- ICTを活用した新たなスマートインフラマネジメントシステムの整備
- 的確な維持・補修を推進し、お客様に安全で安心な首都高を提供

## 1 点検



高所作業車による構造物接近点検



InfraDoctor®を活用した各種台帳管理

## 2 監視



施設管制室での監視



CCTVによる車両状況監視

## 3 維持・補修



道路清掃



舗装補修

## お問い合わせ先

首都高速道路株式会社 財務部 決算課

TEL : 03-3539-9540 (直通)

〈URL〉 <http://www.shutoko.co.jp/>